

第1回 こども未来拠点施設整備基本構想検討懇話会 議事概要

【開催概要】

日 時：令和8年8月24日（月） 13:30～15:00

場 所：金沢市役所第二本庁舎3階 第1研修室

傍聴者：1名

【議事要旨】

（1）座長選任

事務局から、開委員（金沢星稜大学人間科学部こども学科 教授）の座長就任を提案し、全会一致で承認

（2）意見交換発言要旨

事務局から、欠席の三津谷委員の事前提出意見の報告

- ・ 拠点施設の基本理念について、「こどもの健全な育成」という言葉を含めたい。加えて、子育て世代など利用者を単にサービスの利用主体としてだけでなく、「一人の人間」としてかかわっていくという姿勢を理念に反映させたい。
- ・ 不登校支援機能については、様々な状態に対応し、幅広い設備を備えていることが強みであると感じる。
- ・ 子育て支援機能については、相談室、子育て広場、情報案内機能は必須であり、内装にも工夫が必要である。
- ・ 防災機能については、ある程度天井を高くしてほしい。また、施設が複数棟に分かれると慣れていない方にはわかりにくく、避難の遅れにつながるのではないかと。
- ・ 施設へのアクセスについては、幅広い方が利用しやすいよう駐輪場を確保することや、ホームページを分かりやすくするとよい。
- ・ 規模や配置については、人に会わずに施設を利用したい相談者等への配慮を行うことが重要である。また、不登校支援や交流の場の面積を十分に確保してほしい。

若松委員（三馬校下町会連合会 会長）

- ・ 地元や南部地区の思いとしては、専門的な機能も大切だが、気軽に集まれるサロンのような空間であってほしいと当初から要望してきた。
- ・ こどもたちを育てるために、様々な年代の方や障害のある方など、多様な人が楽しく生活を共有する姿をこどもたちに見せられる施設にしたい。
- ・ 例えば市役所第一本庁舎にあるような、障害のある方でも働ける喫茶店などがあれば有効だと思う。

開座長

- ・ 多様な人々が共に生きる「共生社会」の実現は重要な視点であり、こどもの未来にもつながっていくと思う。

中委員（教育プラザ富樫運営委員会 委員長）

- ・ 教職員や幼児教育・保育職員に対する研修機能は、新しい教育について教職員等がしっかりと学ぶことで、日々の教育や子育て支援に還元していく非常に重要な機能であり、持続可能性を担保するためにも新しい施設に入れておく必要がある。
- ・ 現在ではオンライン研修が半数以上を占めるが、実際に集まって行う対面研修も非常に重要であり、新たな機能も加わる中で駐車場をどのように確保するのかを懸念している。教職員等は学校や園での勤務を抜けて集まるため、公共交通機関での来館を求めるのは現実的に困難である。

開座長

- ・ これまでの機能をどのように継続し、発展させていくか、専門性に特化しすぎると敷居が高くなってしまう懸念もあり、そのバランスは非常に難しい。
- ・ 駐車場についてはどのくらい必要か、具体的な算出も必要になると思う。

長谷川委員（子育て向上委員会 代表）

- ・ こどもの遊び場は非常に重要な要素だと考えている。近年の夏場の暑さを考えると、屋内で体を使ってのびのび遊べる施設が整備されれば非常によいと思う。
- ・ ただ、必要な機能や駐車場など、限られたスペースの中でどのようにバランスをとるのがよいか、非常に難しい課題だとも感じる。

仲屋委員（三馬地区社会福祉協議会 会長）

- ・ 三馬地区社会福祉協議会では、0歳児からの子育てサロン、学童保育、高齢者の地域サロンやデイサービスを行っている。地域の一連の世代の活動を支えてきた立場から言えば、従来の教育プラザの枠組みから少し視野を広げ、地域に開かれた多世代交流の拠点となれば理想的である。

中田委員（社会福祉法人金沢市社会福祉協議会保育部会 部会長）

- ・ 教育と福祉の融合というのは、言葉にするのは簡単だが実現するのは非常に困難である。それを平成15年には金沢市が構築したことは誇るべきことだと考える。
- ・ 「共生」という視点は教育・福祉において非常に重要なテーマであり、また研修・教育機能により新しい価値や専門性をともに創り出す「共創」の場でもある。「共生」と「共創」を掛け合わせたコンセプトとなれば、堅苦しい施設ではなく将来が

楽しくなるような施設にできるように思う。

- ・ 駐車場もそうだが、例えば保育所については、近年の受け入れ児童数や少子化の進展を踏まえてどの程度の規模が適切なのかなど、他の機能についても具体的な数値を出すことで検討しやすくなると思う。

開座長

- ・ 「共生」に加え「共創」という非常に重要なコンセプトをご提示いただいた。
- ・ 敷地や規模の限界はあるものの、まずはどのような方向性を目指すのかを明確にすることが最優先であり、その上で実現可能性を試算していくことになると考えている。

水島委員（金沢こども応援ネットワーク 代表）

- ・ 少子化が進む一方で、子育ての悩みは非常に多様化・深刻化しており、乳幼児だけでなく、小中学生の保護者も孤立や不安など様々な問題を抱えている。そうした方にとって敷居が低く、気軽に相談できる機能が不可欠だと思う。
- ・ また、多くの家庭が共働きのため、土日祝日でも親子で気軽に訪れて相談したり、時間を過ごせる環境が必要である。
- ・ 多世代交流については、核家族化が進む中で地域社会からもこうした場が強く求められている。若い保護者にとって人生の先輩である高齢者の方々から言葉をかけてもらうだけで心が軽くなることもある。
- ・ 福岡の複合ビルでは、屋上庭園が設置されており、こどもが遊んでいたりと、高齢者の方が木陰でコーヒーを飲んでいたり、様々な世代の方の交流が自然と生まれ、非常に居心地の良い空間だった。敷地面積の制約については、屋上や半地下の活用など、予算の兼ね合いもあるが、知恵と工夫で解決できる部分もあると思う。
- ・ 障害のある方も利用しやすいインクルーシブな施設としてほしい。

松本委員（金沢市立小学校長会 幹事長）

- ・ こどもからお年寄りまでを対象とした多世代交流施設というのは非常に先進的なコンセプトであり、非常に夢を感じている。
- ・ 研修機能については、私たち教育者にとって生命線であり、専門性を高め、そこで培った力をこどもたちに還元していくために極めて重要なものである。また、集合型で教員同士が直接集まって議論し、切磋琢磨する場は非常に有意義である。
- ・ また、教育プラザ富樫には自主的に学ぶための資料や書籍が充実しており、土日に志のある教員が集まって研修室を利用することもある。こうした優れた研修環境は維持・継承してほしい。
- ・ 幼保小連携の強化に期待したい。小学校1年生で幼稚園等からの移行期におけるギ

ヤップに苦しむ児童は少なくなく、連携の重要性を年々強く感じる。この施設がその連携を推進する拠点となってほしい。

- ・ 多世代交流について、小学校で地域の方々に昔遊びを教えていただく機会があるが、こどもたちも嬉しそうで、地域の方も笑顔になる。現代において、日常的に多世代が交流できる場がひとつでもあれば、こどもたちの豊かな心を育むことにもつながるのではないか。

開座長

- ・ すべての地域にそのような場があれば理想的だが、この施設がそのモデル拠点として機能すれば素晴らしいと思う。

眞鍋委員（金沢大学融合研究域融合科学系 教授）

- ・ 単に多世代が交流できる場所というハードを設置すればよい、あるいは定期的なイベントや貸室といったソフト機能があればよい、ということだけでなく、多世代が自然な形で出会うような空間設計が重要ではないか。
- ・ 事務局で他都市に視察の際、各施設で多世代交流機能がどのように果たされているか、実態として課題や工夫を確認し、整理して次回会議で示してほしい。
- ・ 長土堀青少年交流センターに中高生の放課後の居場所としてユースセンターが開設されており、市として注力していると聞いている。この施設でも、既に多くの機能が想定されスペース的に難しいかもしれないが、中高生の居場所となることも検討する余地があるのではないか。

加藤委員（一般社団法人石川県私立幼稚園協会金沢支部 支部長）

- ・ 防災機能について、近年、国内で大きな地震が頻発しており、避難所での生活は過酷なものである。この施設が保育機能や子育て支援機能、多世代交流機能を備えているとなれば、災害時においても過ごしやすい安全安心な避難環境を提供するポテンシャルを持つということになる。三馬小学校との連携も含めて、地域の安全と安心につながる防災拠点の構築が必要である。
- ・ 幼保小連携や研修機能について、幼児教育・保育と小学校教育は、こどもの育ちの連続性においてしっかりと繋がっていく必要がある。研修機能によって、幼・保・小がお互いのことをよく知り、高めあえる場になればよい。
- ・ ハード面について、特に保育所は高層階への配置は難しく、配置や登降園時の動線、また、教育支援センター利用者が周囲の目を気にせず入りやすい動線、防犯対策など解決すべき課題は非常に多く、ハード面の課題の整理が必要である。

開座長

- ・ 単に機能を集約するだけではなく、福祉、教育、幼保小、そして地域が自然な形でお互いの存在を感じながら次へつなげていく関係性の構築が重要であり、一つの大きなコンセプトになる。
- ・ ここまでの意見交換で、整備コンセプトとして「共生」「共創」という方向性が示されたと思う。
- ・ 子育て支援や多世代交流機能に関しては、核家族化が進み地域とのつながりも求められる中で、自然な形でつながり合える場が求められている。0歳から18歳までのこどもの時期を地域全体でどのように支えるか、そして子どもたち自身が主体となって学べる場をどう構築するかという点が重要であり、保育所、近接する小学校との連携も含め有機的な連携体制が必要である。
- ・ 設計上の課題として、階層など法的な限界のほか、周辺環境への配慮や駐車場の確保などは今後の大きな検討課題となる。それを踏まえつつ、自然に開かれた空間と、支援が必要な子どもなど配慮が必要な空間をどのように配分していくかという点も、今後の論点になってくる。

若松委員

- ・ 教育に関する機能は衰退させてはいけない。先生方の資質向上のため、この施設が実際の教育・保育現場を直接見学し、学べるチャンスになることは非常に有意義だと思う。先生方にとってもわくわく感のある研修拠点になるのではないかな。

水島委員

- ・ 学校の先生は非常に多忙であり、若い世代で教員を目指す方が減少していることを懸念している。先生方がこの施設に集まることで、日頃の悩みを共有したりできる交流と癒しの場としても機能すれば素晴らしい。
- ・ そのためのカフェなどが施設内にあればよいと思う。地域の方が主体となって運営するカフェなどがあれば地域の活性化にもつながると思うので、柔軟な施設運営を検討してほしい。

眞鍋委員

- ・ 現在の教育プラザは、私自身これまで訪れたことはなかったが、非常に多くの機能があり驚いた。新しい施設は南部地区の住民だけでなく、市内の誰もが気軽に訪れ、利用できる開かれた場所になればよいと思う。
- ・ 中高生に加えて、大学生も集えるような場にしてほしい。金沢市には多くの大学があり、意見に出たカフェの運営を大学生に任せてみるなど、若い力をどんどん借りていくことでよりよい拠点になると思う。

松本委員

- ・ 「共創」というキーワードはとてもよいと思う。急速に変化する社会において、みんなが集い、ウェルビーイング、みんなが幸せを感じられるようにというコンセプトを大切にしていければと思う。

長谷川委員

- ・ 石川県立図書館は、市民に開かれ、誰がいつ訪れても心地よく過ごせる場所で、今回議論している機能と近い機能も有しており、身近にあるお手本として参考にしてほしい。敷地面積などは県立図書館と大きく異なるが、知恵と工夫によってできることもあると思う。

仲屋委員

- ・ 小学校の昔遊びの授業に参加していると、核家族化が進む現代において、地域の高齢者が関わっていくことは大きな意味があると感じる。多世代の交流というものをコンセプトの柱にして検討してほしい。

中田委員

- ・ 県立図書館もそうだが、必要な方はもちろん行くが、そうでない人も「ちょっと行ってみようか」と気軽に訪れる場所にしたい。そこでカフェに立ち寄って落ち着いたり、誰かに話を聞いてもらってほっとしたりできるような気軽な場所になるとよい。

中委員

- ・ 新しい施設へのわくわく感は大切だが、夢物語で終わらせないためには少し我慢するところも必要になってくるだろう。その中で何か一つ、例えば屋内広場などを目玉として打ち出すといったこともあればよいと思うが、基幹的な機能をまずは優先して、そこにプラスアルファしていくというのが現実的な考え方ではないかと思う。

加藤委員

- ・ 現在の教育プラザ富樫は、こどもたち一人一人の状況に応じて動線などを考え、寄り添っているというふうに見えた。こうした基本的な部分については、しっかりと必要な方に使っていただけるような場所として維持することが必要である。
- ・ 一方で、地域に愛される施設になっていくことも必要であり、いろんな世代、いろんな人が集まる拠点とすることで交流が生まれてくると思う。

事務局

- ・ 本日はたくさんの意見をいただき感謝申し上げます。
- ・ 教育プラザ富樫は「教育と福祉が連携し、こどもたちの健全な育ちを一貫して推進する」ことを基本理念として、時勢の変化に対応しつつ、機能の拡充と連携強化を図ってきた。この基幹となる「研修・研究部門」、「相談機能」は新施設においても拡充、機能強化を図りながら、どうあるべきかを考えていきたい。
- ・ 本日いただいた貴重なご意見を参考にしながら、秋までに大まかにとりまとめ、次の会議でお示しさせていただく。

以上